



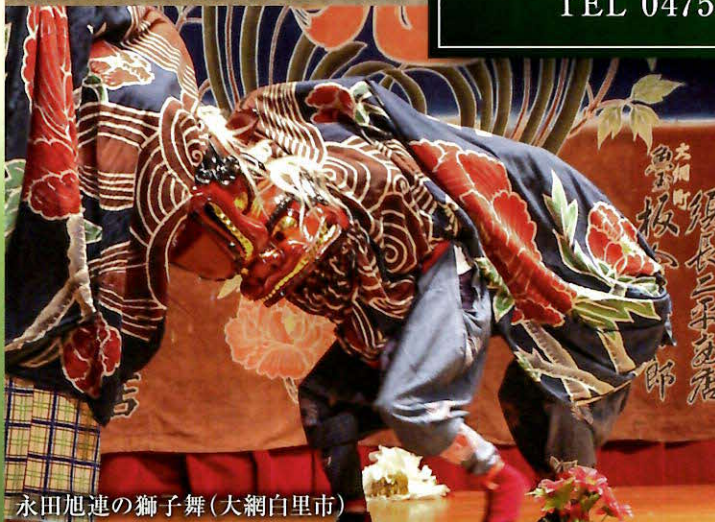
岩沼の獅子舞(長生村)



東金ばやし(東金市)



白幡八幡神社神事御竜頭の舞(山武市)



永田旭連の獅子舞(大網白里市)



屋形の獅子舞(九十九里町)



南日当の獅子舞(白子町)



玉前神社神楽(一宮町)

令和6年度 房総の 郷土芸能

山武・長生地区の7つの民俗芸能が一堂に会す

令和7年 1月19日(日)
開場 12時 / 開演 12時30分

会場
長生村文化会館
〒299-4336 長生郡長生村岩沼2119
TEL 0475-32-5100

入場無料

主催 令和6年度房総の郷土芸能実行委員会
千葉県(千葉県教育委員会)、千葉県無形民俗文化財連絡協議会、長生村教育委員会、東金市教育委員会、山武市教育委員会、大網白里市教育委員会、九十九里町教育委員会、白子町教育委員会、一宮町教育委員会

後援 株式会社千葉日報社、朝日新聞社千葉総局、読売新聞千葉支局、毎日新聞千葉支局、産経新聞社千葉総局、日本経済新聞社千葉支局、東京新聞千葉支局、千葉テレビ放送、bayfm

助成 夢まるふぁんど委員会(第19回夢まる文化(国際)事業)、芸術文化振興基金助成事業



問合せ 令和6年度房総の郷土芸能実行委員会事務局
(千葉県教育庁教育振興部文化財課内)
TEL.043-223-4082

房総の郷土芸能

千葉県内各地には、豊かな自然や歴史の中で培われ、今日まで伝承されてきた民俗芸能が数多くあり、地域の祭礼等で演じられています。日頃は地域で演じられている民俗芸能を目にする機会は多くありません。そこで、こうした文化財に対する一般の理解と認識を深め、将来への保存・継承活動の推進と地域文化の活性化に寄与することを目的として、平成8年度から地域を代表する民俗芸能を集めて上演する「房総の郷土芸能」を開催しております。

岩沼の獅子舞 (岩沼獅子舞保存会 / 長生村)

岩沼の獅子舞は、江戸時代に茂原市本納地区から伝承されたと古老から言い伝えられており、元和7(1621)年に初めて村祭りを催したと古文書にあります。長生村岩沼地区にある皇産霊神社の祭礼として2月24日の春祭りや10月19日に秋季大祭などに奉納されていました。現在では秋祭りとして10月19日に近い土曜日に開催されています。

神前に氏子安全、五穀豊穡、悪疫退散の祈願を行い、神社の境内に作られた仮舞台で、横笛、太鼓、大小つづみ、鉦、ほら貝、拍子木などの囃子連に合わせ獅子舞が奉納されます。

獅子舞は「羽手の舞」「仕立て四足の舞」「仕立て玉遊び」「亀の舞」「乱玉の舞」等の演目のほか、歌舞伎を参考にした「国性爺合戦」「お唐」等獅子舞と劇が絡んだ出し物は、県内各地で行われる獅子舞とは異色の存在です。最終演目の「乱玉の舞」は圧巻で、2頭の獅子が地上8メートルほどの大梯子の上で演じる曲芸や昇降のすれ違いは妙技として知られており、観客を魅了しています。

岩沼の獅子舞は、神社の森から聞こえてくる懐かしい囃子のリズムに乗って、郷土の民俗文化を伝えています。

東金ばやし (上宿おはやし保存会 青と会 / 東金市)

東金ばやしは、江戸時代末期から明治前期にかけて形づくられ、当時流行していた江戸長唄の影響を受けたものと伝わっています。

演奏は主に、2年に一度行われる日吉神社祭礼の神輿の露払いとして巡行する、屋台の上で行われます。また、日吉神社祭礼の他にも「青と会」の地元上宿区で隔年に催行される、火正神社祭礼をはじめとした市内各地の祭礼やイベントでも演奏されています。

本日は、東金ばやしの曲目の中から、日吉神社祭礼で山車・屋台が向かい合った時や、神輿や各神社に「はなむけ」を行う際に演奏される「四丁目」や、原曲の江戸四丁目に地元で手を加え創作したと伝わる「青とばやし」を始めとした8曲を演奏します。

「青と会」、「青とばやし」の「青と」の呼称は、上宿の屋台に飾る提灯に、青色で『と』と書かれていたことに因るといわれています。

白幡八幡神社神事御竜頭の舞 (白幡八幡神社伝承文化保存会 / 山武市)

白幡八幡神社の祭礼の締めくくりとして行われる御竜頭の舞は、源頼朝が源氏の再興を果たし、右近衛大将に任じられた折に、戦勝祈願の御礼として、四人の武将を遣わしたことに始まったと伝えられています。

御竜頭の舞は、はじめに十二の舞からなる「十二番」が伝えられ、後に「四方固め」「弓くぐり(天の舞)」「槁がかり(地の舞)」が加わり、現在のような四つの舞になりました。本日は、その中から「弓くぐり」をご覧ください。

「弓くぐり」は、天の舞とも云われ、金の幣束を立てた弓の神々しさに見とれ、なかなか近づけず遠巻きにしていた獅子達が、やがて女獅子、子獅子、大獅子の順に弓で遊び、弓をくぐり、さらに綱を使って遊ぶところをあらわした舞です。

永田旭連の獅子舞 (永田獅子旭連 / 大網白里市)

永田旭連の獅子舞は、伊勢の太神楽の系統で、慶長年間に隣村の萱場大村谷(現在の茂原市萱場)から伝わったと言われています。元禄13(1700)年、永田村の鎮守矢口神社が、小中村本社から分宮して富谷に建立されたとき、その鎮守祭に奉納しています。その後、地域の行事には欠かせない郷土芸能として親しまれています。平成30年度には、ちば文化資産にも選定されています。

演目は、布の舞・幣束の舞・鈴の舞・剣の舞・お染獅子等です。以前は旧暦の1月11日、9月19日の春秋2回の祭典で、矢口神社に獅子舞が奉納されていましたが、現在は1月の第2日曜日、10月の第3日曜日に変更されています。

屋形の獅子舞 (屋形獅子舞保存会 / 九十九里町)

屋形の獅子舞は、口伝によれば、「正徳元(1711)年卯月に夷大明神の遷宮祭を行い、五穀豊穡、浜大漁を祈願して獅子舞が奉納された。」といい、その後数々の芸獅子の演目が導入、創作され、九十九里町の片貝地区では、最も古い獅子舞といわれています。

伝承演目は、「平獅子」として「序の舞、剣の舞、御幣の舞、鈴の舞、下駄手」など、「芸獅子」として「相生、四つ足、玉取り、蛇、花かがり、蜘蛛」など、「面神楽」に「伊勢参り、鳥刺し、和唐内」など、囃子に「屋形囃子、中山囃子、馬鹿囃子」などがあります。

南日当の獅子舞 (南日當獅子舞保存会 / 白子町)

南日当の獅子舞は、里神楽の系統で、獅子神楽ともいわれ、田楽的で能や狂言の要素を含みながら発達したものです。したがって、狂言用の仮面を多く使います。神社の祭礼に奉納されながら初期は、単純素朴な音楽や踊りでしたが、次第に発達して余興が増え、演劇等も加わりました。また、江戸時代末期、山武郡から伝承したといわれ、初期流派を小錦流と呼んで荒神楽の多いのが特徴です。

明治中期には近隣の獅子連と盛んに競演して常に好評を博しました。大正時代には俳優小佐川重章が芝居を獅子舞に織り込んで、演技に新風を添えました。運営は、長く世話人制の獅子連が当たりましたが、現在は保存会で行っています。主な演目は、囃に鎌倉、中山、お茶、馬鹿、東金、本納等の各囃と、天の岩戸開き、鈴と御幣の平獅子から、蛇遊び、四つ足、亀と舞う、草刈、達磨取り、蝶等の下手舞があります。

玉前神社神楽 (上総神楽保存会 / 一宮町)

玉前神社神楽は「上総神楽」とも呼ばれ、上総国一之宮・玉前神社に奉納されている神楽です。宝永7(1710)年、境内に神楽殿が造営され、神楽が奉納されたことが始まりで、土師流の神楽を伝授したと伝えられます。

かつては玉前神社の5つの社家(風袋、飯塚、宮本、小塚、高原)が神楽を伝授していましたが、現在は上総神楽保存会によって継承されています。江戸時代は不漁の際の大漁祈願として神楽が奉納されることもありましたが、現在は神社の祭礼にあわせて奉納されています。本日の演目は「蛭子」。蛭子は伊邪那岐と伊邪那美の間に生まれ、のちに福神の一福・恵比寿と呼ばれて、大漁をもたらす神として信仰されています。恵比寿が釣り上げた鯛を、火男が捕えて喜び神楽です。

会場マップ

ご来場の際は、お車の乗り合わせ、または公共交通機関のご利用にご協力ください。

至茂原 至一松海岸
至茂原 至一宮

県道茂原長生線
長生村役場
長生村交流センター
八積駅
●長生村文化会館
国道128号

アクセス JR外房線八積駅より徒歩7分・駐車場有